

挨拶の仕方に周りの環境は影響するのか

中 3 - B - 3 3 水 上 睦 貴

目次

はじめに

第 1 章 日本の挨拶の歴史について

第 2 章 世界の挨拶について

第 3 章 世界を言語人口、宗教、歴史、人種の四つの観点から考える

おわりに

参考文献

はじめに

最近、あるテレビ番組でアメリカ人同士が互いに肘を出し合って擦りつけて挨拶しているのを見て、同じ人間なのに日本人では考えられない挨拶の仕方だなと思い、挨拶について調べることにしました。その上で1つの疑問が生じたので今回はその疑問の解決を行いたいと思います。

その疑問というのは「挨拶の仕方に周りの環境は関係するのか」というものです。

そこで僕の思った仮説は「挨拶の仕方に周りの環境は関係する」です。

第1章 日本の挨拶の歴史について

見やすくするために2つの時代ごとに区切って書いています。

[縄文時代～弥生時代]

縄文時代はアイヌ語を使う文化だったので、「イランカラプテ」（こんにちは）と言って挨拶していたと思われます。

弥生時代は弥生語を使う文化で一般的に「ヤア イマ ツィ」（「やあ、きみ」という意味）と言っていたそうです。

[古墳時代～奈良時代]

古墳時代は渡来人が中国大陸などから多くやってきて仏教を伝えたので、お辞儀をする人が増えたそうです。

奈良時代は古墳時代から続きお辞儀をしていたそうです。ちなみに新年の挨拶をし始めたのはこの時代からだそうです。

[平安時代～鎌倉時代]

平安時代は挨拶の習慣はなかったそうです。当時の女性は無口、要するに「つましやか」が美德であったそうで、会話の第一声は9割が男性からだったそうです。挨拶のようなものがあっても、「誰ぞ」と問われて名乗るぐらいだったそうです。

鎌倉時代は武家社会で礼儀に厳しく目上の人にはお辞儀をし、見かけた人には皆「言葉掛け」という挨拶をしなければならなかったそうです。

[室町時代～安土桃山時代]

室町時代はお辞儀の角度などを細かく決めた「真・行・草」の3つに分けられるほど挨拶に厳格だったそうです。

安土桃山時代はこれといった資料はありませんでした。鎌倉、室町時代の例からも分かるように、ただ武士の世の中だったので武士も武士以外の人もそれなりに挨拶していたのではないのでしょうか。

[江戸時代～明治時代]

江戸時代は目上の人も下の人も基本的に朝は「おはようございます」で、それ以外の時間帯になると目礼（会釈、お辞儀）、相手の名前や身分を口にしていました。

明治時代は「おはようございます」「こんにちは」「おやすみなさい」などの現代でも使われている言葉が生まれました。

「おはようございます」の語源は歌舞伎だそうで、開演前から準備する演者を労う意味で、「お早い着きでございます」という言葉が生まれたそうです。これが変形して「おはようございます」になったそうです。

「こんにちは」の語源は「今日のご機嫌いかがですか。」という言葉の「今日は」という部分を切り取って今日まで使われるようになったそうです。

これらの資料から以下のことがわかります。

1. 最初のうちは口頭での挨拶だけだった。
2. お辞儀は仏教から来ていた。
3. 武士の世の中になってから身分を考慮して挨拶していた。

この3つの結果から分かることは、どれも今の挨拶の風習に当てはまっているということです。また、この結果だけで考えてみると挨拶には宗教や歴史が関係することが分かります。

第2章 世界の挨拶について

この調査をするにあたって、地域ごとに分け、挨拶の仕方が似ている国はまとめて掲示しています。

[ヨーロッパ]

イギリス、ドイツ：ハローと言いながら握手する。

フランス：頬にキスする。

イタリア、スペイン：両方の頬に一回ずつ「チュッ」と音を立ててキスする。
ロシア：男同士は強く握手をし、それ以外の場合はソフトに握手する。
このようにヨーロッパではボディタッチが主流になっています。

[アフリカ]

エジプト：同性は握手をするが異性とは頬にキスする。
モロッコ：頬にキスする（異性同士は握手だけの人もいる）。
南アフリカ（ククコ族）：相手の手のひらに唾を吐く（魔除けのため）。
エチオピア：握手をして相手の頬にキスをする。
スーダン：相手と握手した後、相手の肩を右手で叩く。

このようにアフリカ地方ではヨーロッパと似た挨拶の仕方をすることがあります。しかし中には、3回キスしたり、唾を吐いたりとは少し違ったものもわかります。



[アジア]

中国：拳を手で包み込む。
トルコ：男性同士は頭の両側を触れて挨拶する。それ以外の場合は手で背中を叩きながら頬にキスをする。
サウジアラビア：同性の場合は右、左、左の順番にキスをする。絶対に異性とはキスをしない。
韓国：目上の人には敬意を持った挨拶（お辞儀など）をする。日本と似ている。
インド：基本的には両手を合わせて少し頭を下げて、「ナマステ」と言う。しかし、相手が目上の人の場合は相手の右足を触る。なぜ右足を触るかというと、右にはポジティブな気があり、左にはネガティブな気があるとされているからである。そのため、基本的にインド人は食事は右手で、排便の後始末は左手で行う。
タイ：ワイという合掌をする。基本的に胸の前で両手を合わせて行うが相手の地位が高いほど合掌する位置も高くなる。
オーストラリア：初対面では握手、知り合い同士はハグやキスで挨拶する。

[アメリカ、南米]

アメリカ：親しい人にはハグ、親しくない人には握手をする。
ブラジル：ハグとキスはセットで行う。
アルゼンチン：ベソという互いの頬を付け合って横でチュッと口で音を鳴らすことをする。
ペルー：男性同士は握手、女性同士は頬にキス、異性同士は握手をする。
チリ：男女関係なく互いの頬をすりつけ合う。

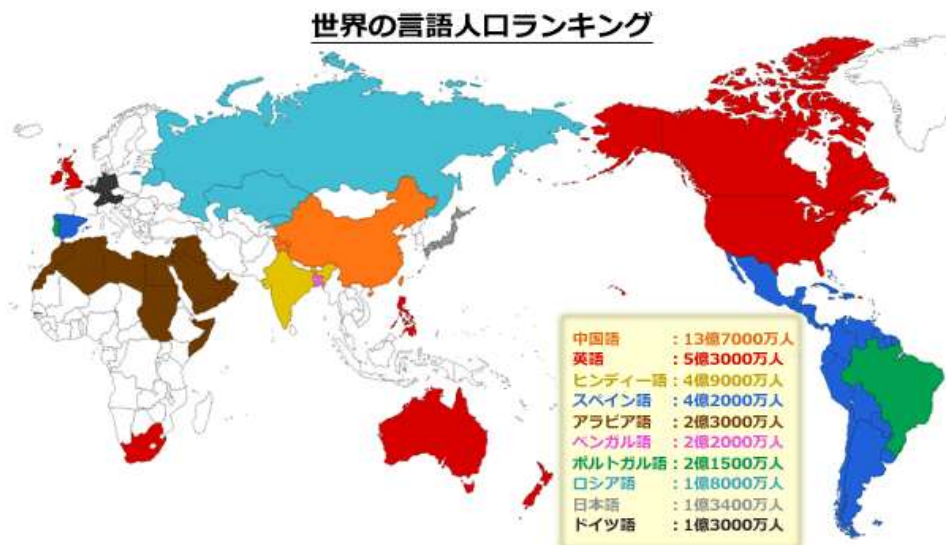
第3章 挨拶を様々な観点から考える

前章の結果と言語人口、宗教、歴史、人種の四つの観点から考えていきたいと思えます。

まず言語人口の観点から見ていきましょう。

英語圏の国に共通することは何もなく、中国語やロシア語は一つの国でしか使われていないので、言語人口と挨拶の仕方は関係ないことがわかります（図1）。

図1 世界の言語人口ランキング



次に宗教的観点から見ていきましょう。

4つの宗教（キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教）の特徴を紹介します。

キリスト教：キスは聖なるものとされ、兄弟キス（男性同士）や姉妹キス（女性同士）などもある。相手に対して愛情または敬意の意味もある。

イスラム教：左手は不浄とされ食事や握手のときは必ず右手を使わなくてはならない。また、キスは結婚を前提としている人以外とはしてはいけない。

ヒンドゥー教：頭は神聖なものだとされているので、人の頭は触ってはいけない。イスラム教と同様左手は不浄とされている。

仏教：「五戒」などの決まりがある。「五戒」とは「不殺生戒（生き物を殺してはいけない）」、「不偷盗戒（盗みをしてはいけない）」、「不邪淫戒（不貞行為をしてはならない）」、「不盲語戒（嘘をついてはいけない）」、「不飲酒戒（お酒を飲んではいけない）」を表す。

以上のことをまとめると、キリスト教が広まっているヨーロッパの人々は挨拶は主にキスをしますが、イスラム教が主な地域（北アフリカ、中東アジア）でもキスをしています。よって宗教と挨拶の仕方はあまり関係がないことがわかります（図2、図3）。

図2 宗教人口の割合

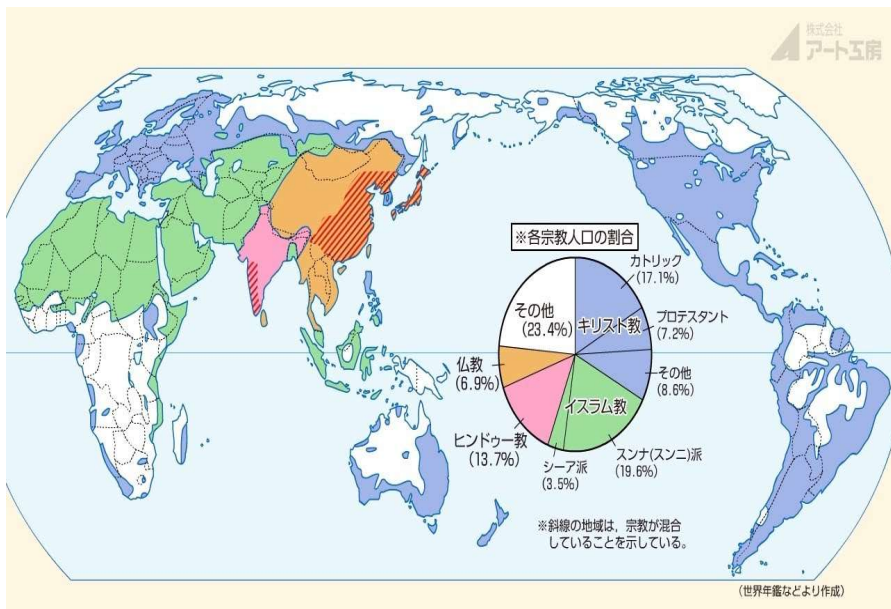
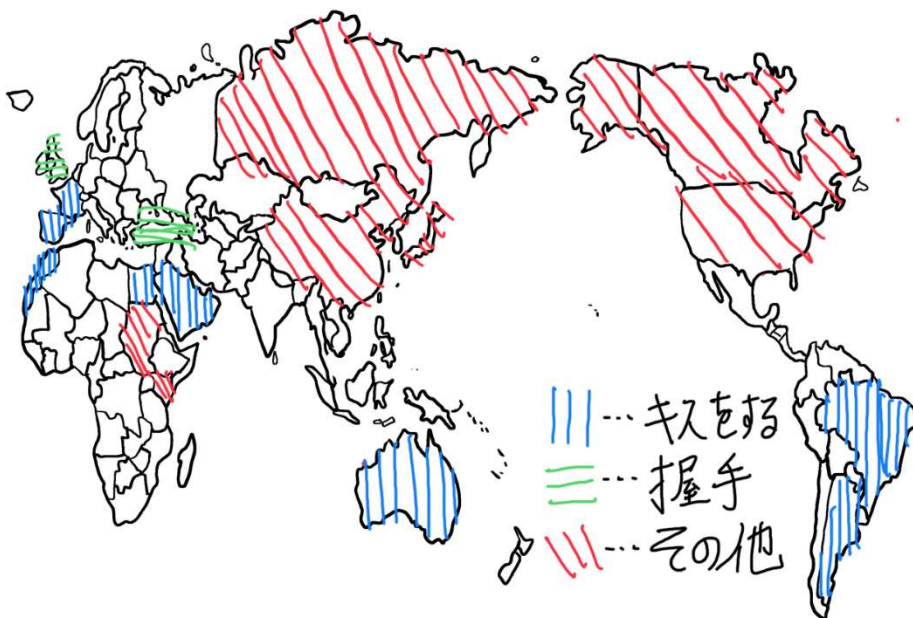


図3 挨拶の種類



アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、南米など、挨拶が似ている地域がたくさんありました。次にこれらの国を歴史的な観点から調べていきたいと思います。

まずこの4つの地域の中で最も古い歴史を持つ地域はヨーロッパです。ヨーロッパではローマ帝国が紀元前27年から1453年まで約1500年間統治していました。その間に一つの地域がローマ帝国に支配されていました。それはアフリカです。アフリカの中でも北の部分に支配されていました。図4、図5で見るとモロッコやエジプトなどが含まれています。

図4 ヨーロッパ

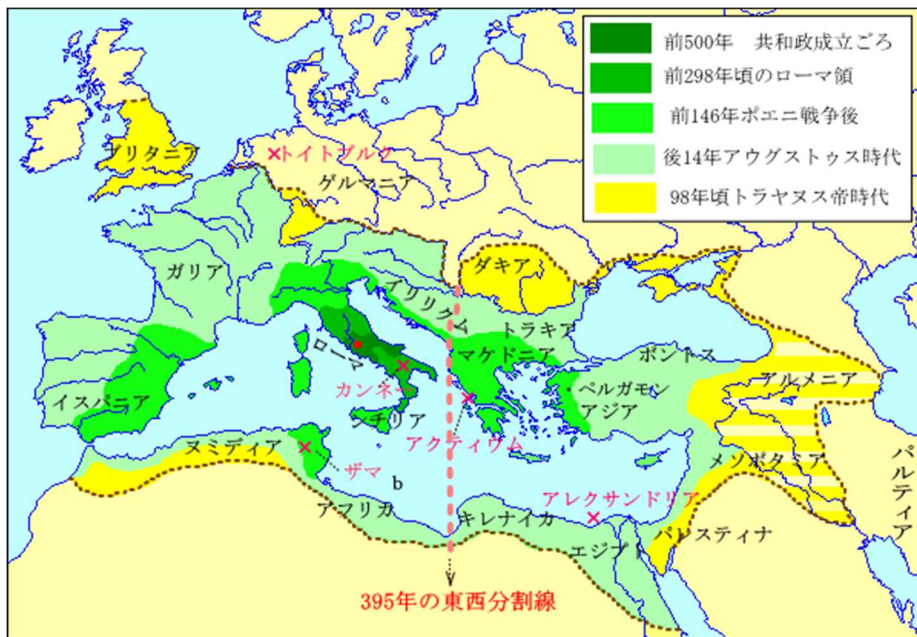
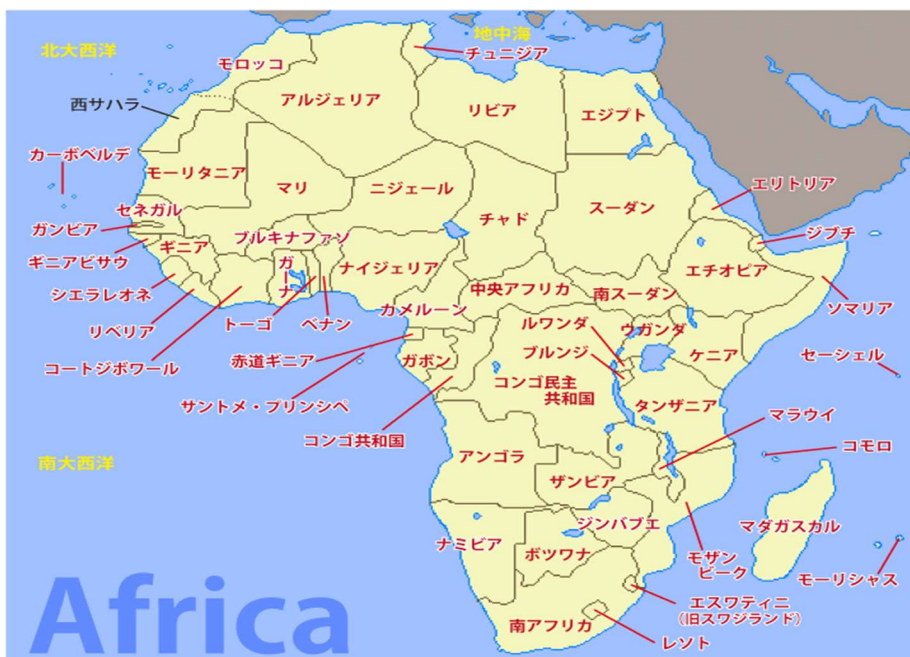


図5 アフリカ



やがてローマ帝国はオスマン帝国によって滅ぼされ、世界は大航海時代（15世紀～17世紀前半）へと突入します。スペインやポルトガルが世界のいたる所で植民地をもつようになります。その中に南米が植民地とされていました。ブラジルはポルトガルに、それ以外（ギアナ地方はフランス領）はスペインに支配されていました。よってヨーロッパと南米は接点があると言えます。

その後、イギリスとフランスで革命が起きこの二国が各地を支配します。その中でアメリカ大陸が植民地として支配されました。詳しくはイギリスによりアメリカの東部、フランスにより中部が支配されました。その他にアフリカのほぼ全てがこの二国によって支配されました。図6がイギリスの植民地、図7がフランスの植民地です。

図6 イギリスの植民地

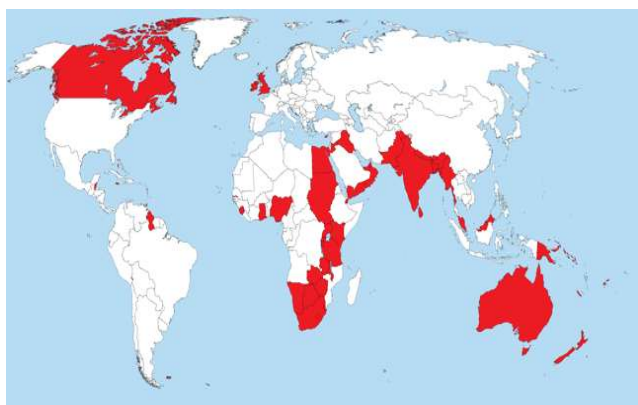


図7 フランスの植民地



この結果から分かることは、この3つの地域はヨーロッパと歴史の上で接点があるということです。また、この3つの地域はキスをして挨拶をしているので、歴史と挨拶の仕方は関係するということが分かります。

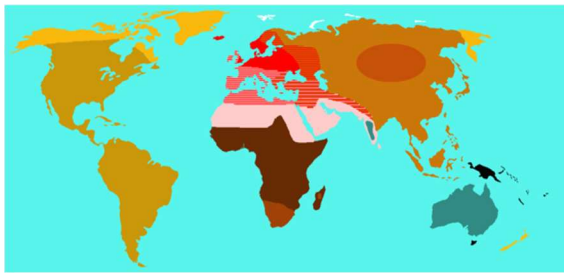
最後に人種の観点から見てみましょう。

ネグロイド人種とオーストラロイド人種は肌の比較的黒い人種、ユーカソイド人種は比較的肌の白い人種で、モンゴロイド a は比較的肌が黄白色の人種で、b は黄褐色、c は褐色です。

下の図8とこれまでの結果から分かることはヨーロッパとアフリカ北部の人種は同じで挨拶も同じだということです。しかし、モンゴロイド人は同じ人種なのにも関わらず挨拶の仕方が全く違います。

ここで歴史的観点から見てみるとアメリカ大陸のモンゴロイド人(c)はイギリスからの入植者により人種が入り乱れ、挨拶も次第にヨーロッパに近づいたと思われる。

図8 人種の分布



ネグロイド人種	オーストラロイド人種
■ ブッシュマン	■ ネグリト
■ ネグロイド	■ オーストラロイド
コーカソイド人種	モンゴロイド人種
■ 地中海人種	■ ポリネシアン
■ 北方人種	■ モンゴロイド (A)
	■ モンゴロイド (B)
	■ モンゴロイド (C)
	■ エスキモー

結論

今回の研究で分かったことは、挨拶は歴史の中でも戦争と強い関係があるということです。例えば、タイは世界大戦中どの国の植民地にも東南アジアで唯一属さなかったので、「ワイ」という挨拶の文化が残ったのではないのでしょうか。日本も戦争に敗れはしましたが、植民地にならなかったのも、今の日本独自の挨拶の仕方があるのだと思います。宗教の違う国でも、挨拶の仕方を統一してしまう戦争の影響に深く気付かされました。

おわりに

今回の研究を通じて、僕は何もない状態から目標に向かって取り組むことの難しさを感じました。始めの資料探しからとても苦労しましたし、集めた後もどうやってその資料を活かしていくのかなど相当悩みました。なので、ちょっとしたでも逆算して取り組むともう少し楽にできたと思うし、何かあっても柔軟に対応することができたかなと思いました。あと、今回は4つの観点から考えましたが、それ以外の観点（地理的なことなど）などからも考えたら面白かったかなと思いました。

ご指導してくださった前田先生、ありがとうございます。

参考文献

- ・男の隠れ家デジタル『日本と海外では挨拶のやり方が違う！？ 挨拶の違いや少し変わった挨拶を紹介！』
<https://otokonokakurega.com/meet/secret-base/53504/>
- ・旭会グローバル協同組合『タイの挨拶習慣「ワイ(合掌)」』
<https://asahikai-gca.com/archives/column/column-825#:~:text=%E4%B8%A1%E6%89%8B%E3%82%92%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B%E3%81%A6%E3%80%81%E8%A6%AA%E6%8C%87%E3%82%92%E9%A1%8E%E3%81%AB%E8%BF%91%E3%81%A5%E3%81%91%E3%82%8B%E5%BD%A2,%E4%B8%8B%E3%81%92%E3%81%A6%E5%B0%91%E3%81%97%E3%81%97%E3%82%83%E3%81%8C%E3%81%BF%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>
- ・にほんご日和『日本の挨拶の習慣と起源。その他各国の挨拶は？』
<https://haa.athuman.com/media/japanese/culture/1477/>
- ・レファレンス共同データベース『レファレンス事例詳細』
https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000245389
- ・綺陽装束研究所『公家の礼法 束着用時の挙措振る舞いなど』
<http://www.kariginu.jp/kikata/10-1.htm>
- ・『意外と知らない(?) 挨拶の由来と礼儀作法』
<https://pando.life/hiyori/article/25699>
- ・SAMURAI've『日本人の所作・礼儀作法の歴史』
<https://tate-school.com/archives/526>